

全国屈指の巨大ターミナル駅を擁する大宮は、江戸時代には中山道の宿場町として、明治時代になると、大宮駅の開業をきっかけに鉄道のまちとして発展してきた。

近年では東日本の各地方を結ぶ広域交通結節点であると共に、大宮駅周辺には商業施設だけでなく氷川神社や大宮公園といった歴史や自然を感じられるスポットもあり、連日多くの人々で賑わいを見せている。

### 東京園子坂から移転

そのような賑やかさとは対照的に、閑静な住宅街の中に「盆栽町」という地域が存在する。大宮駅から北東へ2キロほど離れた場所に位置し、「もみじ」や「かえで」など樹木が植えられ、緑豊かな街並みを形成している。



10年に世界初となる公立の美術館がオープン④ 盆栽を買い求める人々で賑わう（提供・さいたま市）⑤



一般財団法人日本不動産研究所 ②4

## 地域資源を生かす

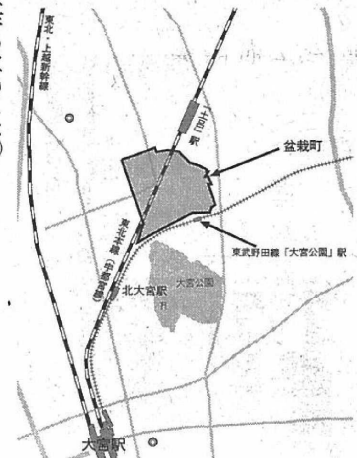
～まちづくりからインバウンドまで

### 大宮 伝統文化が息づく

盆栽町というのは1940年に正式に決定した行政区画名であり、町内には現在もいくつかの盆栽園が存在し、「大宮盆栽村」と呼ばれ国内外の盆栽愛好家があつまる盆栽の聖地となっている。

盆栽町の誕生は1923年に起こった関東大震災により被災した東京の園子坂（東京都文京区千駄木）周辺の盆栽業者が、盆栽を育てるのに適した広い土地、きれいな水、空気、関東ロームの良質な赤土を求め、交通便利性の良

盆栽町という地味なイメージだが、17年4月には4年に1度開かれる世界的な盆栽イベントである「世界盆栽大会」が開催され、多くの外国人も参加した。盆栽は今や「BONSAI」として世界中で親しまれている日本の伝統文化であり、インバウンド向けの観光資源として今後更なる注目が期待される。



大宮駅から北東2キロにある「盆栽町」

### 開村当時から続く景観保全

## 世界を魅了する盆栽の聖地

この地に移住してきたのがきっかけである。その後断続的に盆栽園の移住が行われ、最盛期の1935年には約30もの盆栽園が存在した。

戦時中には盆栽は贅沢品とみなされ、多くの盆栽園は廃業や転業に追い込まれた。戦後は宅地需要の高まりを背景に開発が進み、開村時の街並みは失われていったものの、町のあちらこちらには今でも盆栽園と調和した美しい街並みが残されている。

盆栽町では開村当初から、①ここに居住する人は、盆栽

園を中心とする都市計画が行われた世界的にも類を見ない住宅地域である。

現在盆栽町全域が風致地区に指定されており、更に一部の街区では建築協定が締結されている等、盆栽町の景観の保全が行われている。

10年には総合的な盆栽文化を発信する世界で初めての公立の美術館として大宮盆栽美術館がオープンした。日本を代表する盆栽が数多く展示され、週末には盆栽ワークショップ等も開催され人気となっている。

風情のある独特な街並みは盆栽に興味の無い人でも引きつけられる魅力があり、散策スポットとしてもぴったりである。また、毎年5月には盆栽まつりも開催される。世界的なブランドである「BONSAI」を通じて、伝統産業とまちづくりが一体となった「大宮盆栽村」には非足を運んでいただきたい。（関東支社、不動産鑑定士・齋木正人）

### 注目の伝統文化

盆栽という地味なイメージだが、17年4月には4年に1度開かれる世界的な盆栽イベントである「世界盆栽大会」が開催され、多くの外国人も参加した。盆栽は今や「BONSAI」として世界中で親しまれている日本の伝統文化であり、インバウンド向けの観光資源として今後更なる注目が期待される。